

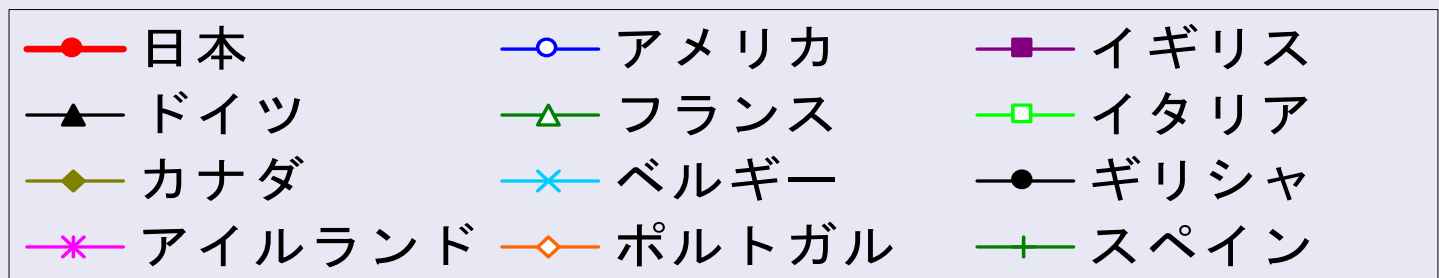
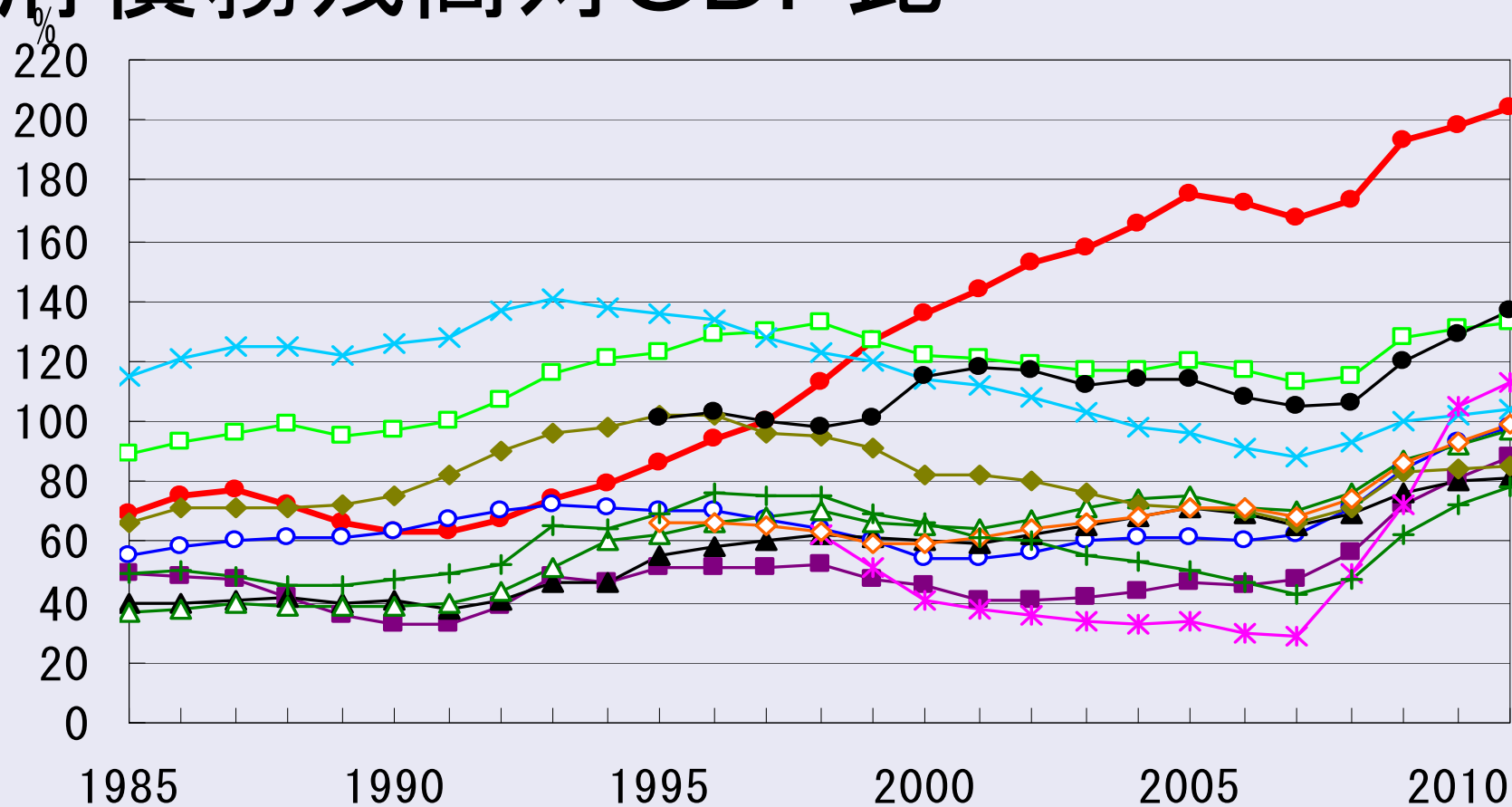
公立義務教育諸学校の 学級規模のあり方と財政

土居 丈朗

慶應義塾大学経済学部教授

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/>

政府債務残高対GDP比



財政健全化との整合性を意識した 学級規模の検討が必要

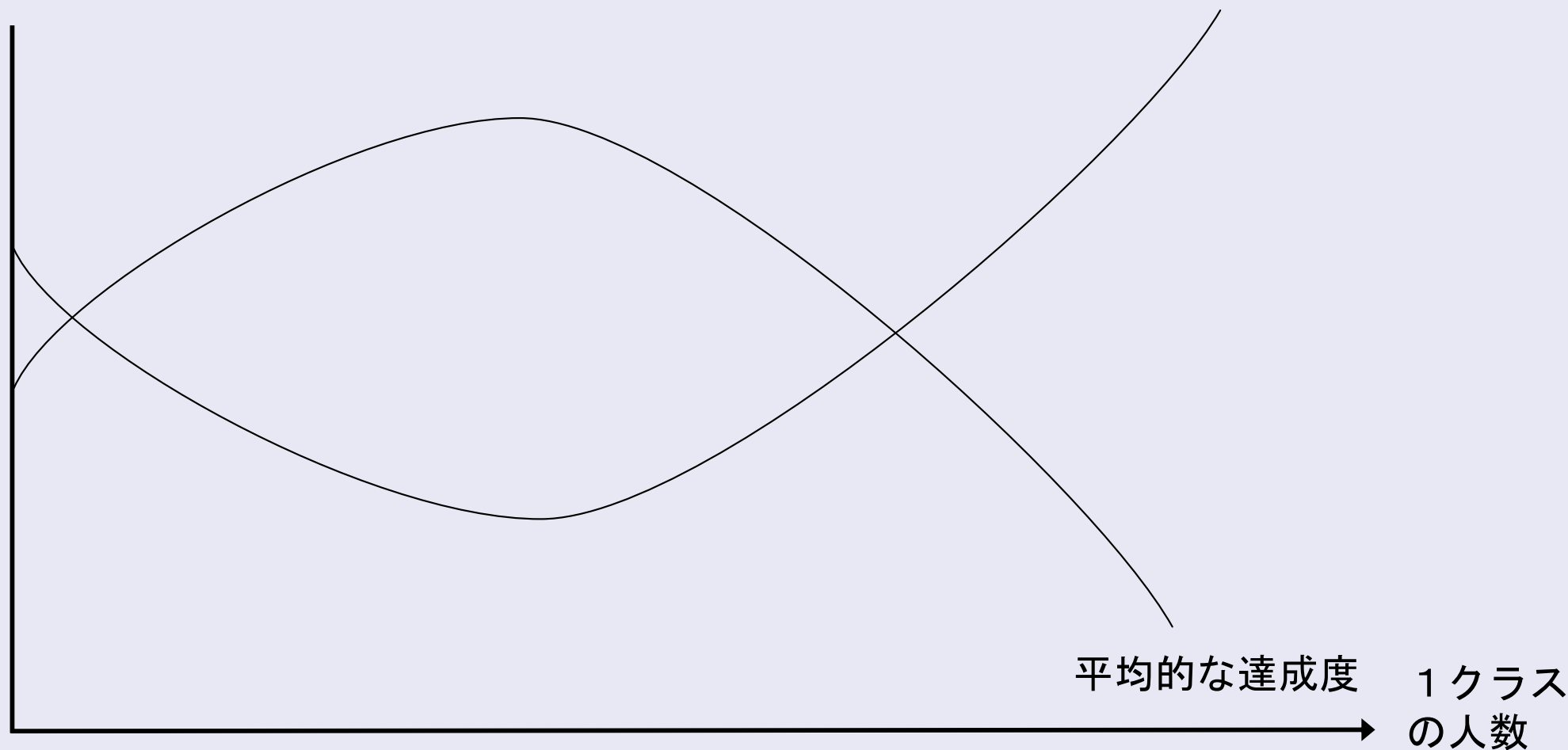
- 義務教育はお金(財政)の都合だけであり方を決めるべきでない。されど、義務教育はお金がなければ維持・充実はできない。
- 教育は日本の将来を担う人材を育てる。しかし、その財源をきちんと確保できなければ、政府債務というツケを将来を担う人材に負わせる羽目になる。
- 予算編成過程で、他の予算よりも優先する価値がある施策であることを、いかに説得できるか

少人数学級の効果に関する客観的な検証 そして、その蓄積が重要

- 教育に関するデータを、経済・社会・財政等に関するデータを交えて、聖域なく、計量分析を行うことが、日本ではまだ不足している
- 海外における経済分析
 - クラスサイズ効果
 - クラスサイズパズル

一学級当たりの最適な児童・生徒数

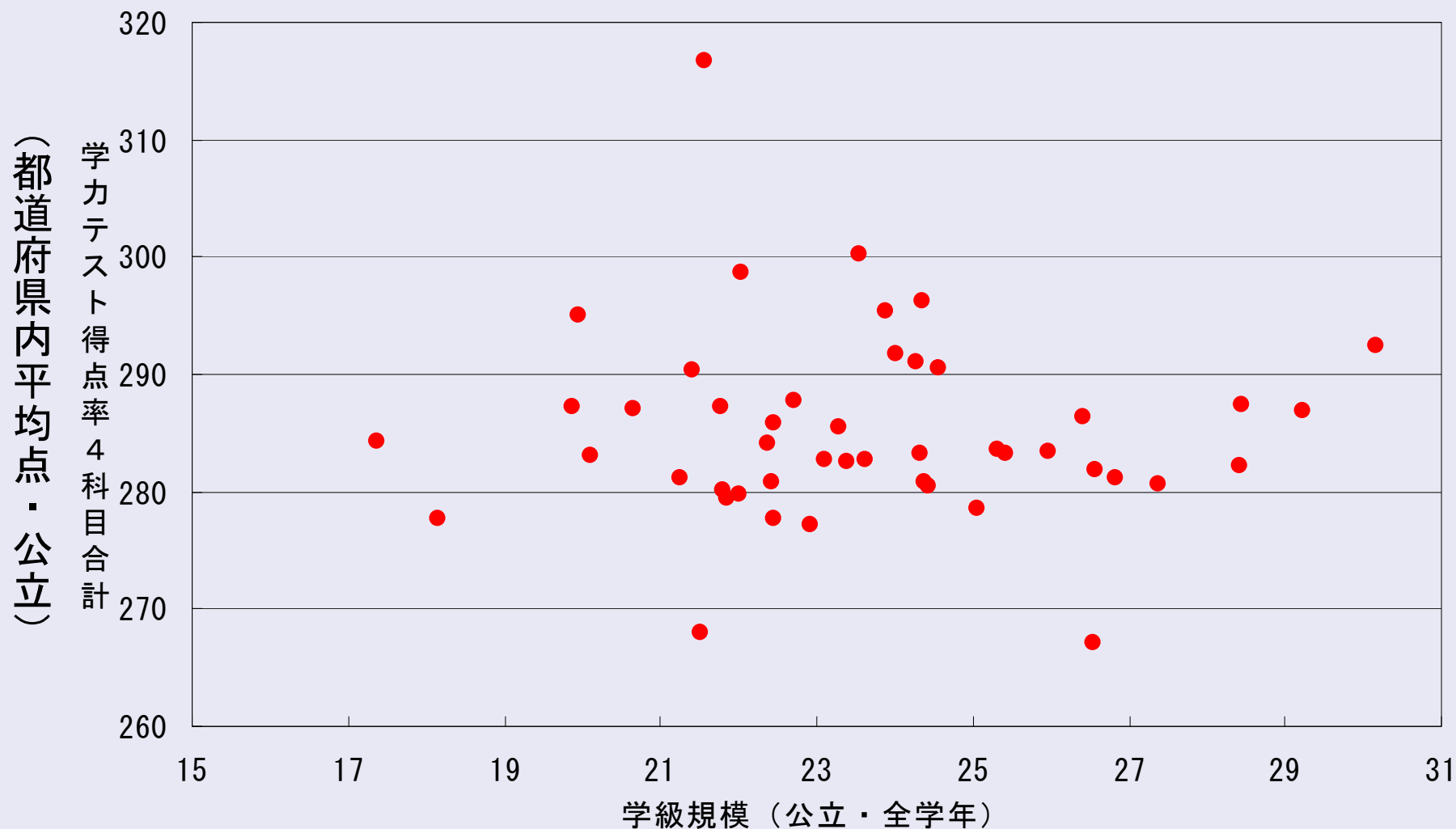
1人当たり費用



出典：安藤至大(2010)「学習者のインセンティブと教育政策の経済分析」, 福井秀夫・戸田忠雄・浅見泰司編著『教育の失敗』, 日本評論社.

学級規模と学力の関係

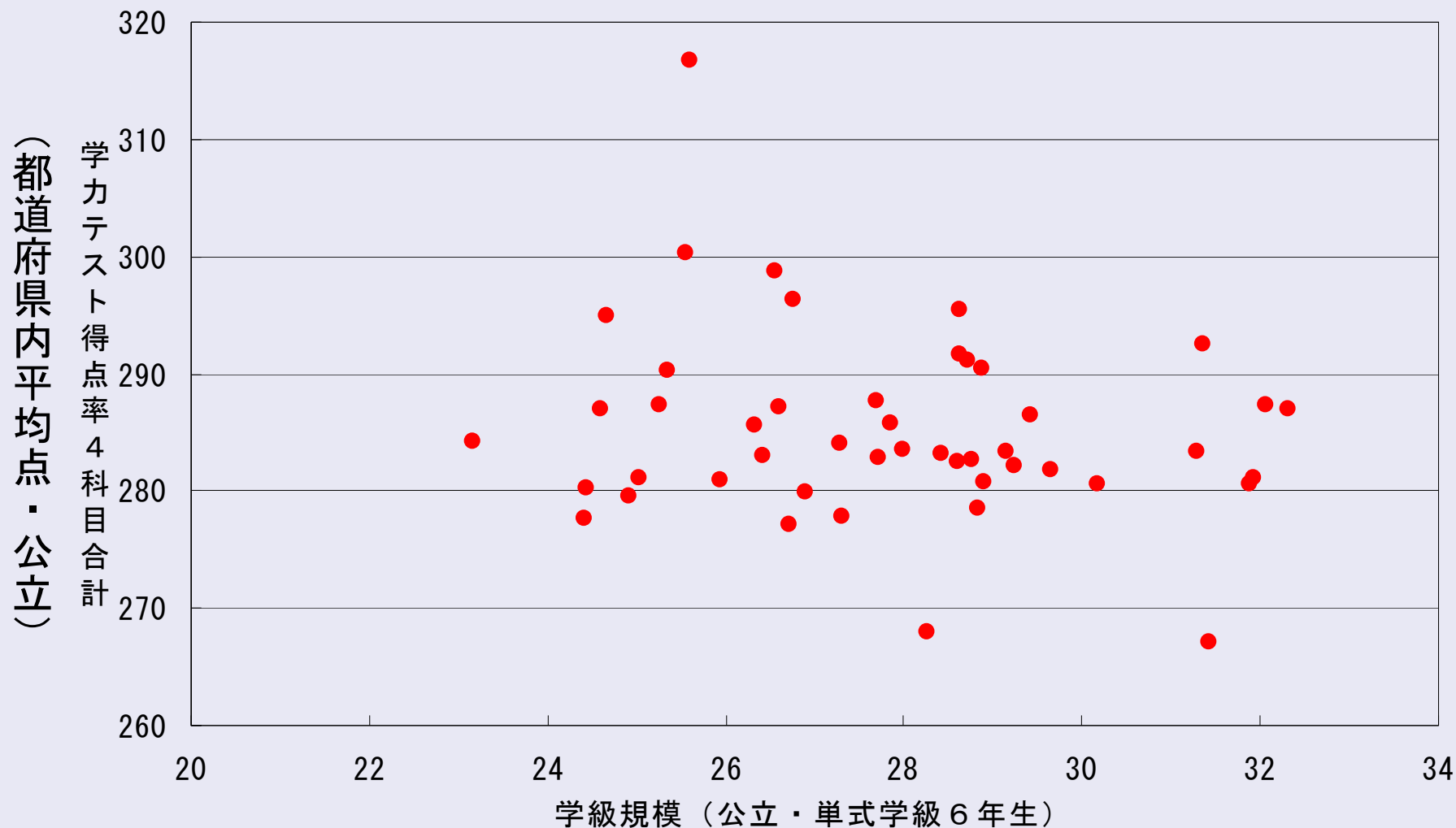
都道府県別・2010年



出典：神田真人(2011)「強い文教、強い科技 序説(上)」, 『ファイナンス』2011年6月号の図を改編.

学級規模と学力の関係

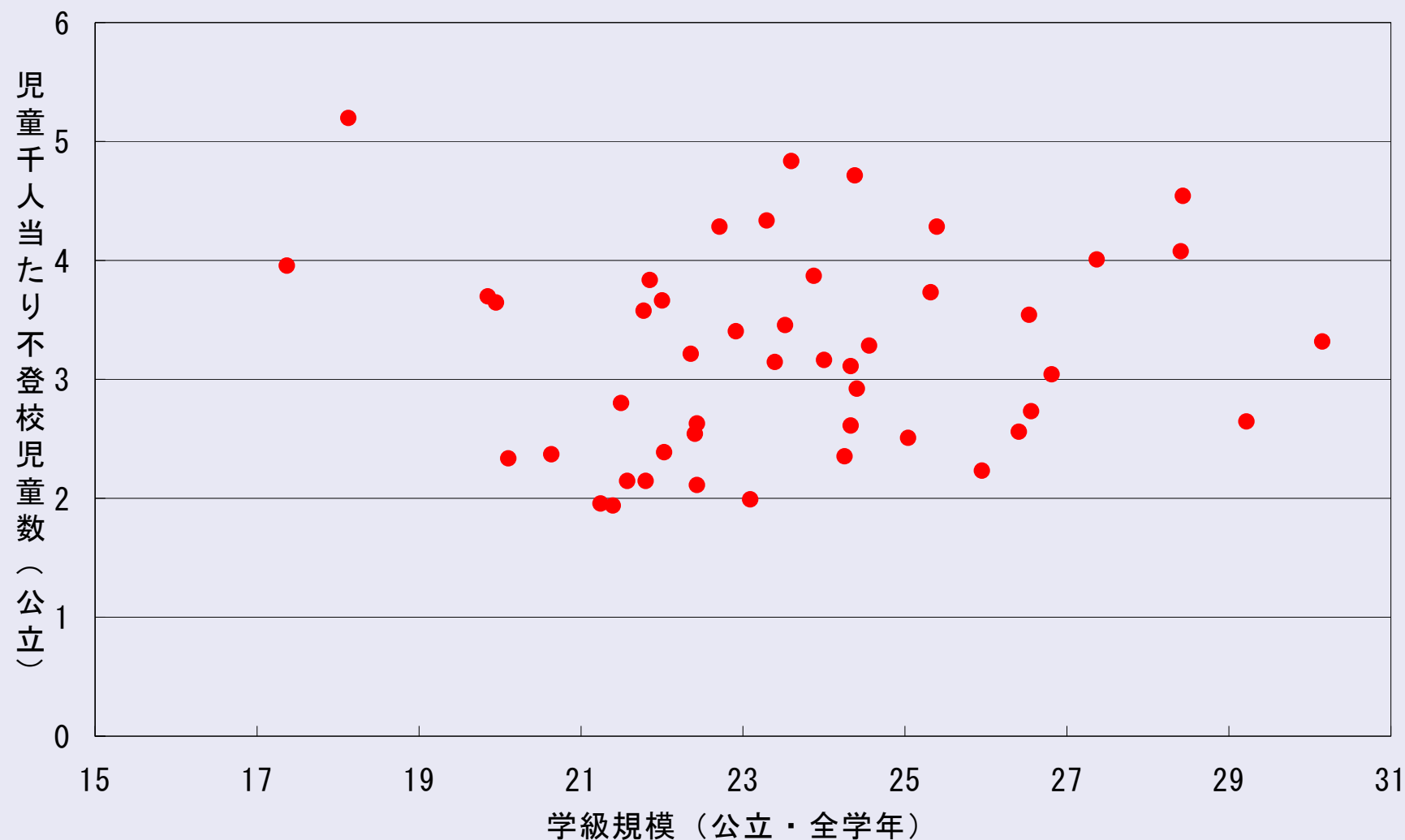
都道府県別・2010年



資料: 文部科学省『学校基本統計』、国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査 報告書・集計結果」

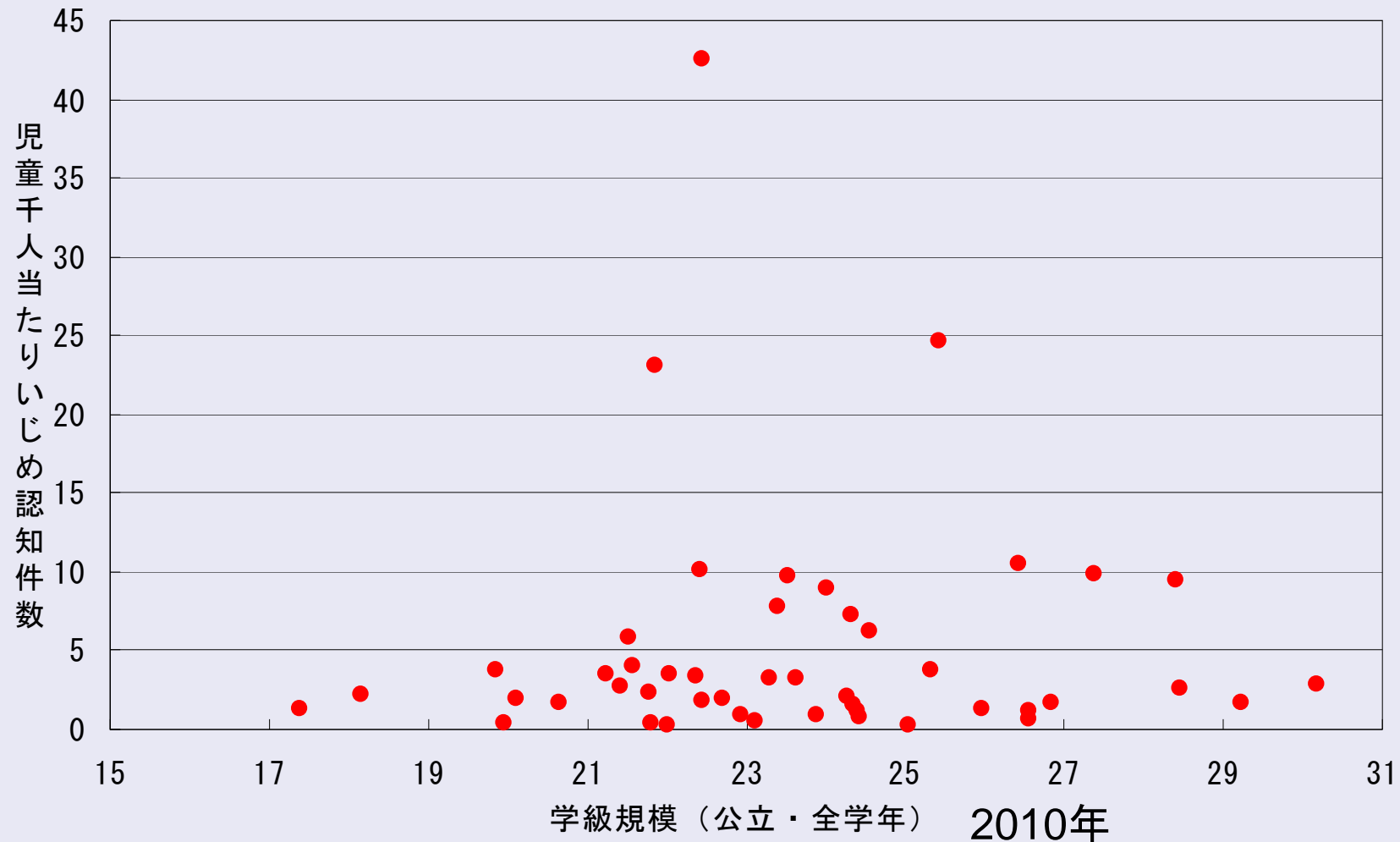
学級規模と不登校の関係

都道府県別・2010年



資料:文部科学省『学校基本統計』

学級規模といじめの関係



資料: 文部科学省『学校基本統計』、「平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

学級規模と学力に関する回帰分析

説明変数： 学力テスト得点率 4 科目合計（2007年） 標本数： 47

| | | | | | | |
|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 定数項 | 107.9064 (2.417) [0.020] | 118.1897 (2.123) [0.040] | 105.1993 (2.317) [0.026] | 127.0019 (2.825) [0.007] | 134.0644 (2.316) [0.026] | 119.9402 (2.560) [0.014] |
| 学級規模 (公立・全学年) | -0.7921 (-1.593) [0.119] | -0.8281 (-1.621) [0.113] | -0.5547 (-0.749) [0.458] | | | |
| 学級規模 (公立・単式学級6年) | | | | -0.9865 (-1.712) [0.094] | -0.9837 (-1.744) [0.089] | -0.7784 (-1.006) [0.320] |
| 1人当たり県民所得 (前年度) | 6.8984 (2.020) [0.050] | 7.3715 (2.052) [0.047] | 10.5832 (1.952) [0.058] | 6.2309 (2.099) [0.042] | 6.3909 (2.250) [0.030] | 8.0471 (1.538) [0.132] |
| 朝食を食べる児童の割合 | 2.1931 (4.110) [0.000] | 2.0768 (3.170) [0.003] | 2.1077 (3.616) [0.001] | 2.0765 (4.030) [0.000] | 1.9988 (3.003) [0.005] | 2.0702 (3.690) [0.001] |
| 児童千人当たり不登校児童 | -2.0743 (-2.345) [0.024] | -2.1432 (-2.388) [0.022] | -2.1024 (-2.248) [0.030] | -1.8622 (-2.282) [0.028] | -1.9141 (-2.296) [0.027] | -1.9578 (-2.222) [0.032] |
| 6年生で就学支援児童割合 が30%以上の学校の割合 | | -0.0741 (-0.464) [0.645] | | | -0.0631 (-0.380) [0.706] | |
| 実質経済成長率 | | | 12.9937 (0.354) [0.726] | | | 3.5776 (0.091) [0.928] |
| 県財政力指数 | | | -10.8953 (-0.688) [0.496] | | | -5.4551 (-0.398) [0.693] |
| 面積 | -0.0002 (-4.636) [0.000] | -0.0001 (-4.684) [0.000] | -0.0002 (-4.755) [0.000] | -0.0001 (-3.202) [0.003] | -0.0001 (-3.450) [0.001] | -0.0001 (-2.901) [0.006] |
| 自由度修正済み決定係数 | 0.3339 | 0.3196 | 0.3078 | 0.3454 | 0.3317 | 0.3151 |

上段：係数推定値
 中段：t値（White
 の不均一分散一致
 標準誤差を使用）
 下段：p値

学級規模と学力に関する回帰分析

説明変数： 学力テスト得点率 4 科目合計（2010年） 標本数： 47

| | | | | | | |
|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 定数項 | 168.7061 (3.075) [0.004] | 150.4296 (2.380) [0.022] | 164.0462 (3.094) [0.004] | 192.1743 (3.410) [0.001] | 171.6217 (2.608) [0.013] | 189.2078 (3.348) [0.002] |
| 学級規模 (公立・全学年) | -0.8997 (-2.120) [0.040] | -0.8112 (-1.741) [0.089] | -0.6187 (-0.974) [0.336] | | | |
| 学級規模 (公立・単式学級6年) | | | | -1.1151 (-2.220) [0.032] | -1.0652 (-2.089) [0.043] | -0.9976 (-1.698) [0.097] |
| 1人当たり県民所得 (2008年度) | 6.9046 (2.038) [0.048] | 5.9479 (1.569) [0.124] | 10.2896 (1.820) [0.076] | 6.0753 (2.078) [0.044] | 5.3343 (1.675) [0.102] | 7.6565 (1.470) [0.150] |
| 朝食を食べる児童の割合 | 1.4359 (2.143) [0.038] | 1.6348 (2.174) [0.036] | 1.3610 (2.200) [0.034] | 1.3024 (1.969) [0.056] | 1.5279 (2.030) [0.049] | 1.2714 (2.052) [0.047] |
| 児童千人当たり不登校児童 | -2.3034 (-1.733) [0.091] | -2.2164 (-1.630) [0.111] | -2.3313 (-1.689) [0.099] | -2.2105 (-1.653) [0.106] | -2.1460 (-1.570) [0.124] | -2.2480 (-1.599) [0.118] |
| 6年生で就学支援児童割合 が30%以上の学校の割合 | | 0.1049 (0.884) [0.382] | | | 0.1229 (1.042) [0.304] | |
| 実質経済成長率 (2008年度) | | | -9.4796 (-0.169) [0.866] | | | -6.8322 (-0.138) [0.891] |
| 県財政力指数 (2009年度) | | | -8.8963 (-0.720) [0.476] | | | -3.6351 (-0.364) [0.718] |
| 面積 | -0.0002 (-5.711) [0.000] | -0.0002 (-5.905) [0.000] | -0.0002 (-5.115) [0.000] | -0.0002 (-5.209) [0.000] | -0.0002 (-5.503) [0.000] | -0.0002 (-5.016) [0.000] |
| 自由度修正済み決定係数 | 0.1879 | 0.1751 | 0.1537 | 0.2166 | 0.2078 | 0.1778 |

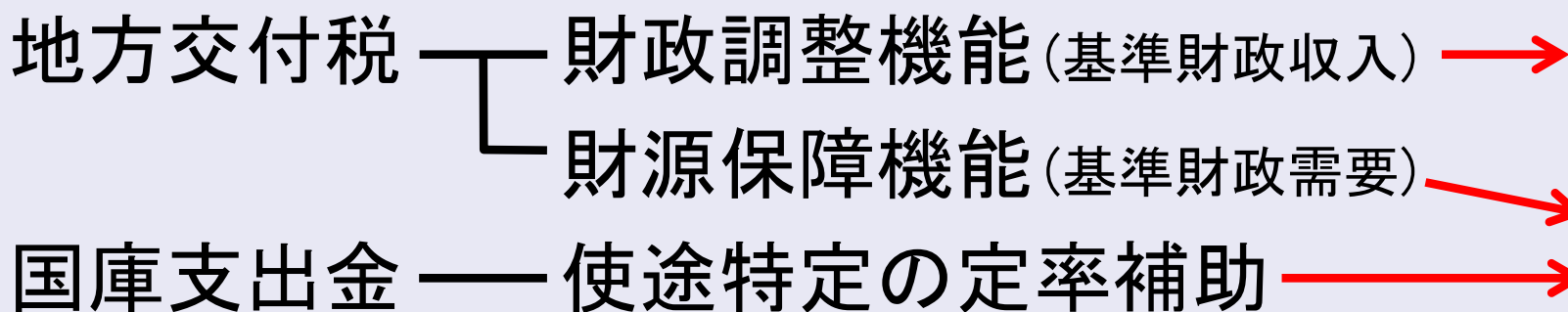
上段：係数推定値
 中段：t値（White
 の不均一分散一致
 標準誤差を使用）
 下段：p値

学級規模と学力の関係

- 学級規模と学力の関係は、現時点では、負の相関が安定的に観察できるほどではない。
- 学力と所得水準、学力と家庭でのしつけの方が、より安定的に相関が観察される。
- さらなる分析やデータの蓄積が必要

国庫補助負担金と地方交付税の役割分担

- 自治体が責任を持つ事務事業は、国は「金も出さないし口も出さない」
- 国が責任を持つ事務事業は、国は「金も出し口も出さず」国が全額負担するのが原則



税収格差是正
のための新・
財政調整制度

ナショナルミニマム維
持のための全
額国庫負担の
交付金※

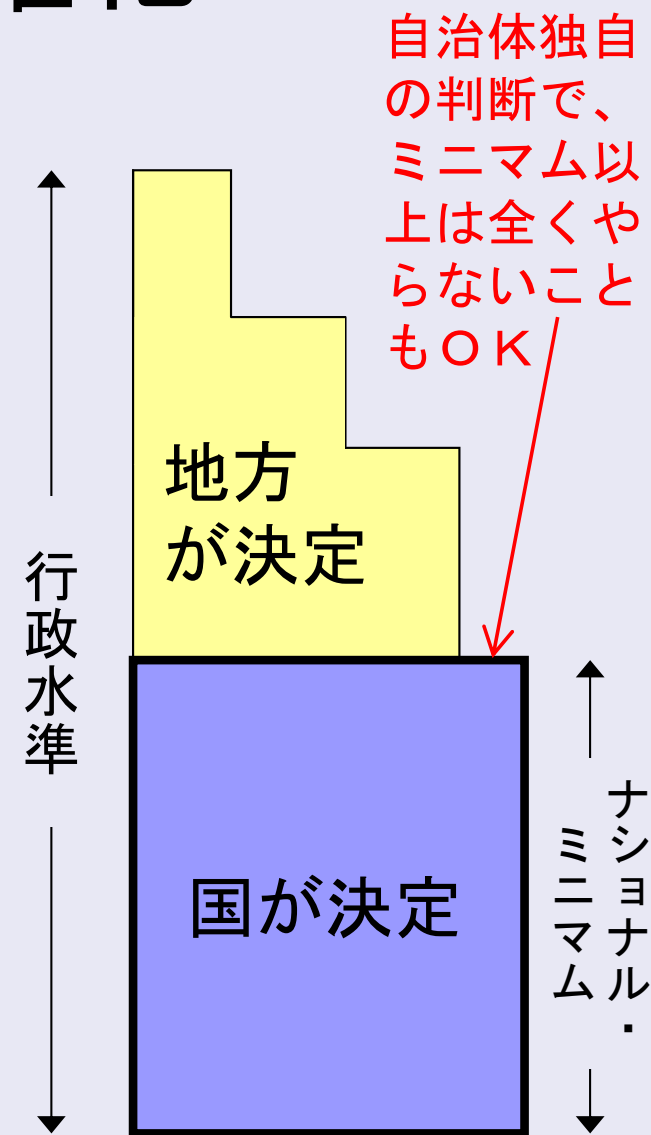
※「交付金」は用途はある程度特定するが、自治体の使い勝手をよくするために、定められた範囲で自治体の自由裁量を与えるもの

「地域主権」確立のために必要な改革

1. 国と地方の役割分担の明確化
2. 基礎的サービス(最低保障部分)は財源保障する「一括交付金」化
3. 公平と機会均等のために財政調整だけを行う地方交付税制度の改革
4. 地方自治体の財源を独自に賄えるようにする地方税制の改革
5. 放漫財政を抑制する地方債制度の改革

国と地方の役割分担の明確化

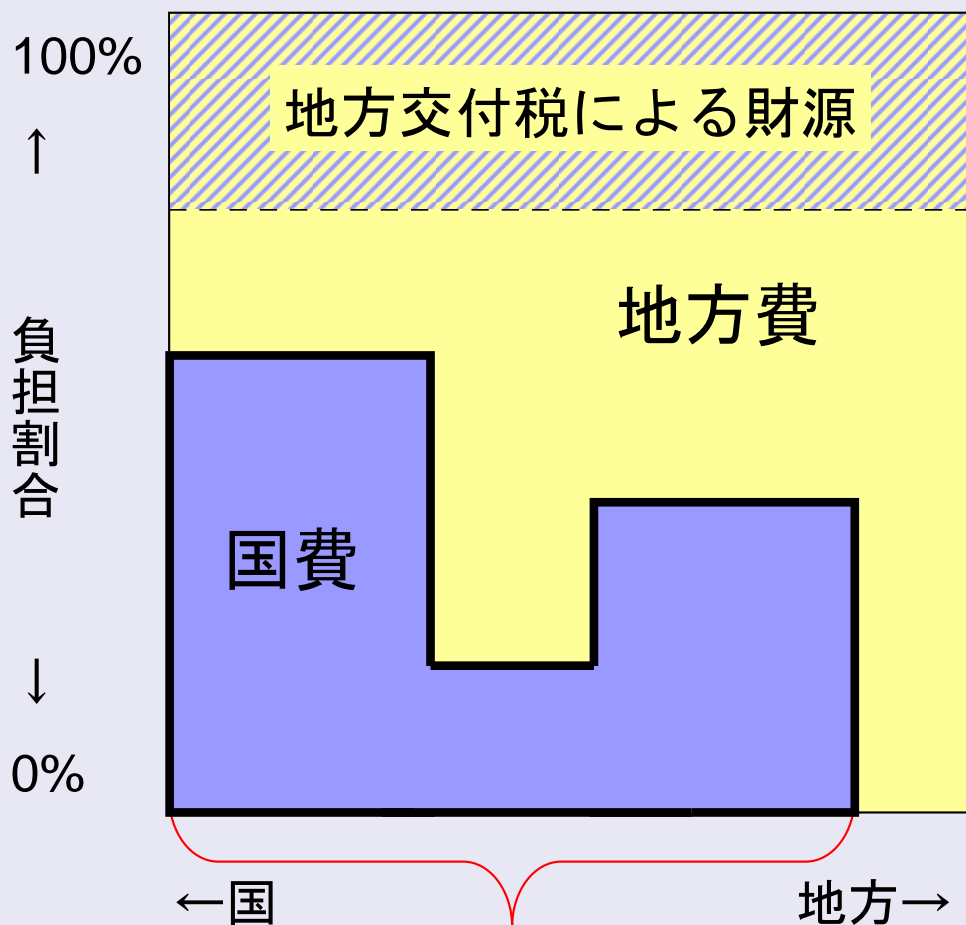
- 最低限必要な部分の決定・国
→ どの地域でも同じ水準を確保
- 追加的な水準の決定・地方
→ 地域間での水準の差異を容認
- 国費投入も、選択と集中
→ どの自治体でも必要とする最低限の部分は、国が財源と権限を持つ
その上乗せ・横出し部分は、自治体に権限を委譲



国と地方の役割分担を明確化

国庫負担のあり方(イメージ)

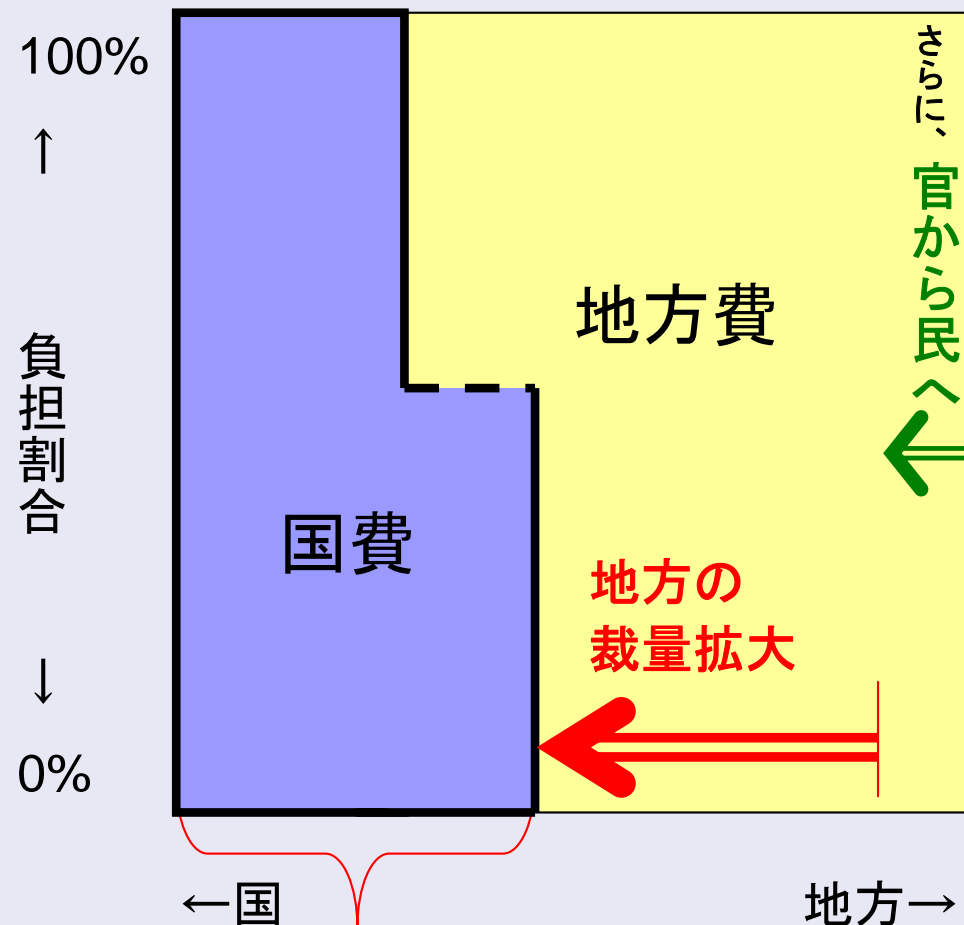
現行



現行の国の関与

⇒

地方分権改革後



国の関与の集中、洗練化

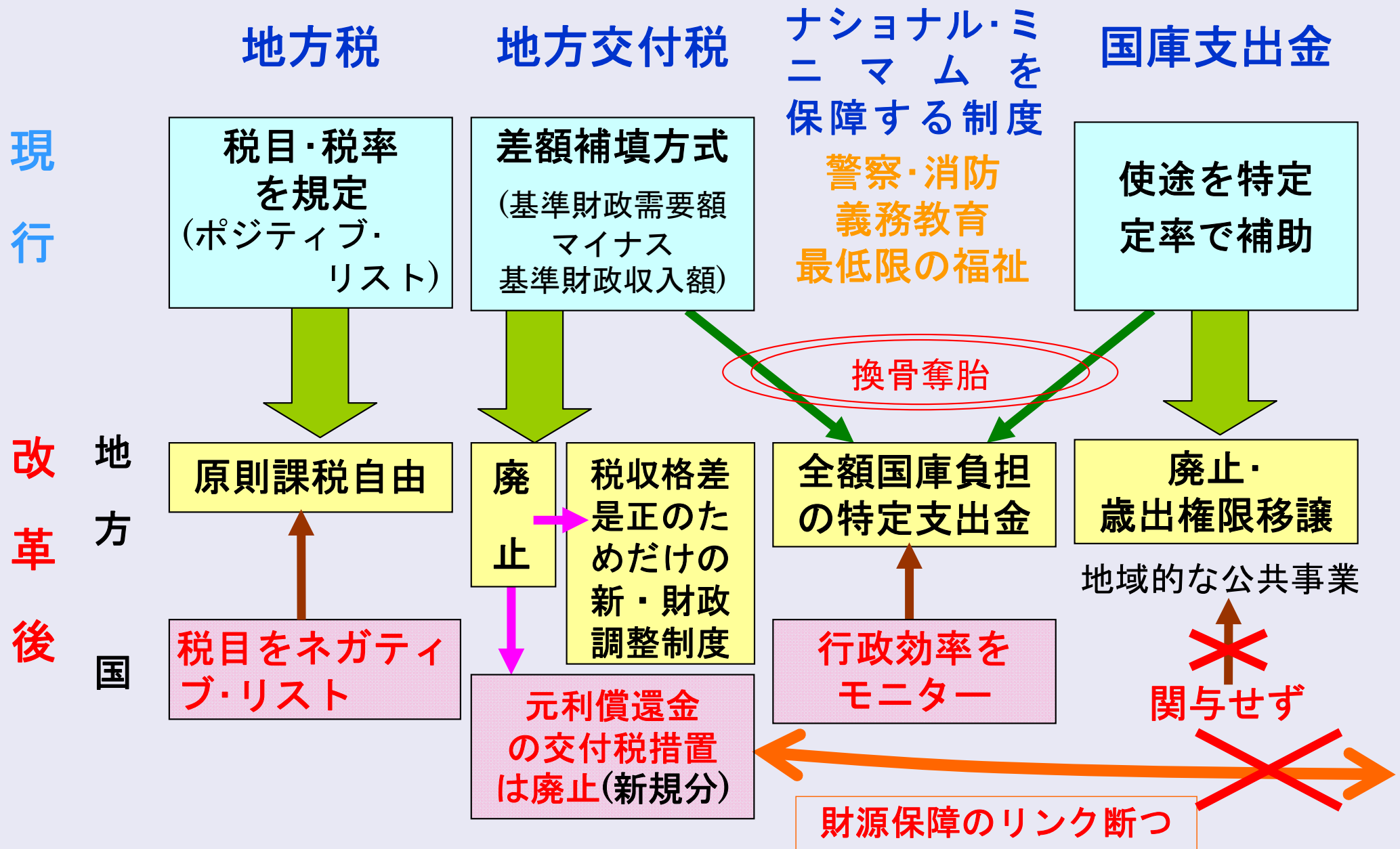
行政権限の配分

- 「補完性の原理」も大事だが・・・
- 「ナショナル・ミニマム」の確保も重要
 - まず、民間でも可能な業務は、民営化、外部委託等で、公共部門の業務を限定
 - 「ナショナル・ミニマム」の確保の観点から、国の業務を限定
 - 次いで、「補完性の原理」に基づき、基礎自治体の業務、道州政府の業務を規定

「ナショナル・ミニマム」の経済学的定義

- ナショナル・ミニマム・・・純粹公共財か外部性が全国に及ぶほど広域である財で、国民全体でみて現在の所得・資産水準にふさわしい租税負担でまかなえる水準(量)
- 警察、消防、義務教育、最低限の福祉などが該当
- 「ナショナル」、つまり国家的規模である必要性があるから、全国規模で必要最低限供給されなければならない公共財が該当する。
- 「ミニマム」の水準は、全国規模で便益を受ける上記のような公共財を、国民全体でその時点での所得・資産水準で負担できる租税でまかなえる程度の量
(憲法25条が示唆する水準を超えることはありうる)
- ナショナル・ミニマムを国が設定し、国が財源を全額確保した上で、自治体に委託することはありうる(多くはそうなる)

<参考> 今後必要な地方分権改革(1)



<参考> 今後必要な地方分権改革(2)

地方債

現
行

地方債協議(許可)制度
(貸し手も国が決定)

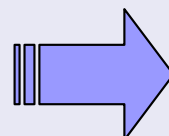
行政サービスの便益が及ぶ範囲に合わせて行政区域を再編
(市町村合併・道州制)

改
革

地
方

市場での
公募発行

地域単位の
共同発行
(地域間競争)

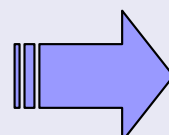


・受益と負担の関係の明確化
・財政運営の自己責任徹底
・市場による規律づけ活用

後

国

地方債の食い逃げを阻止する起債ルール
の設定
債務調整のルール化



・国の事後的な救済を阻止
・地方の共通ルールの設定
・自治体のモニタリング

財源保障の
リンク断つ